

育休後社員が活躍できる組織づくり

育休後コンサルタント **山口理栄**



第1回

育休後社員の現状

今回のフレイズ

「この女性たちは10年近くの経験、スキルを持った貴重な人材です。これから企業の中核として働いてもらうべき社員なのです。」

育休後社員の増加

昨年から育休後の社員の活躍を支援する活動を始めました。

その中で気づいたのは、最近になって育児休業者が出始めた会社がとても多いことです。大企業では10年以上前から定着してきたこの制度が、中小企業にもようやく浸透してきたこと、景気の先行きが不透明な時代に労働者が雇用を手放したくないことが主な原因と思われます。

ところが、そういった社員から困っているという相談を受けます。多くは、元の職場に戻れず通えないくらい遠い職場への異動を命じられたとか、短時間勤務を申請したらパートにならないかと言われたとか、元の職場に戻ったが非常に肩身がせまいといったものです。

なぜ活躍が必要なのか

それでは、こういった問題をはらんだ現状を改善しなお、育休後社員が活躍しなければならない理由とは何でしょうか。それは、スキルのある人材が高い価値を持ったまま日本の労働市場に残れるようにするためです。

日本では今後少子化の影響で労働力人口が急速に減っていきますが、高齢化の進む社会で生活レベルを維持するためには実際に働ける人口を維持しなければなりません。国内でそれをまかなうためには、今まで労働市場から離れていた20代後半から30代の女性、すなわち女性の年齢階級別労働力率が示すM字カーブの凹んだ部分、それから60歳以上の労働者を労働市場に残す必要があります。

(この記事では話を女性に絞ります。)

仕事を辞める理由

そもそもM字カーブの凹みはなぜできるのか。育児休業などの制度が整ってきたのにもかかわらず、第一子出産後に7割近くの女性が仕事を辞めるのはなぜでしょうか。

今の20代、30代の女性は、小、中学校、高校、大学で男子と同じように学び、活動してきています。私の世代では、女子はまじめで成績はよくても生徒会活動や部活で

イニシアチブを取ることは少なかったのですが、この世代は違います。成績がよいだけでなく、部活やボランティアでも男子と同じように積極的に活動しています。中学や高校の生徒会活動でも、自分が学生のころに比べて女子の役員の数に格段に多くなっており、感心するほどです。

企業の採用面接でも女子は好印象を与えます。成績順に採ると女子ばかりになるので調整したという採用担当者の話はめずらしくありません。もちろん入社してもこの世代の女性はバリバリと働きます。キャリアアップしたいという願望も強く、自分磨きや勉強会、異業種交流会などに積極的に参加します。

しかし、30代になり子どもを持つことを考え始めて回りを見渡してみると、子育てしながら生き生きと働いている女性社員がとて少ないことに気づきます。管理職やそれ相当の高い職位の女性で子どもがいる人はほとんどいない現実を見て、子どもを持ってキャリアアップをあきらめるか、キャリアアップのために子どもをあきらめるかで悩む人に数多く会いました。子どもはどうしても欲しい。ただ、苦勞して預け先を決め、忙しい毎日になることを覚悟して復職したとしても、キャリアアップできないのなら意味がない、と思いつめて結局仕事を辞めてしまうわけです。

育

育休社員が活躍するには

これを防ぐためには、育児休業後に復職した社員の能力を活かし、キャリアアップもしてもらわねばなりません。1年前後休業し、戻ってきても子どもの病気などで休みが多い、残業もできませんという社員。

しかし、平均出産年齢が30歳であること

から計算すると、この女性たちは10年近くの実験、スキルを持った貴重な人材です。これから企業の中核として働いてもらうべき社員なのです。

人はどんな時に能力を最大限に発揮するか考えてみてください。期待され支えられていると感じた時に、感謝の気持ちとともに意欲がわき、がんばれるものではないでしょうか。期待され頼りにされ、慣れ親しんだ仕事で自分の力を発揮できるとなれば、育児中の母親も精一杯働こうという気になります。職場が、育児から解放され自分自身でいられる貴重で楽しい場所が変わります。

時間などに制約があっても最大限に力を発揮して職場に貢献する社員の姿は、今後増加するであろう介護しながら働く社員の励みにもなるのではないのでしょうか。この連載では育休後社員が活躍できる組織を作るための具体的な工夫や成功事例を示していきたいと思います。

やまぐちりえ / 大学卒業後、大手電機メーカーにてソフトウェアの設計開発、製品企画に従事。2006年から2年間ダイバーシティ・マネジメント推進プロジェクトでリーダーを務める。コンサルティングファームを経て2010年6月より育休後コンサルタントとして独立。
<http://1995consultant.com>